

1. 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要（事業所記入）】

事業所番号	4078800143		
法人名	社会福祉法人 やまと医正会		
事業所名	グループホーム第二敬和苑（阿蘇ユニット 雲仙ユニット）		
所在地	〒839-0243 福岡県柳川市大和町塩塚1388-1 (電話) 0944-76-5556		
自己評価作成日	令和 3 年 8 月 25 日	評価結果確定日	令和 3 年 12 月 9 日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点（事業所記入）】

リビングは天井が高く、天窗からは柔らかい光が差し込む解放感がある居心地の良い空間となっている。ホームの周辺にはのどかな田園風景が広がり、近くに有明海が面している。居ながらにして季節の移ろいを感じる事ができる。入居者の方は、テーブル拭き、トレー拭きや料理の味見、料理の方法を訪ねたり、洗濯物畳等を自分の役割と感じられ、温かで家庭的な環境の中共に生活出来るように取り組まれている。また、利用者様の尊厳を常に意識しながら、地域の中で和やかに安心して暮らせる事が出来ます様に利用者様の視点に立ったケアの取り組みが出来るホームである。

※事業所の基本情報は、介護サービス情報の公表制度のホームページで閲覧してください。

基本情報リンク先URL	http://www.kai gokensaku.jp/
-------------	-------------------------------------------------------------------------

【評価機関概要（評価機関記入）】

評価機関名	社会福祉法人 福岡県社会福祉協議会		
所在地	福岡県春日市原町3-1-7		
訪問調査日	令和 3 年 10 月 18 日		

【外部評価で確認した事業所の優れている点・工夫点（評価機関記入）】

事業所は、周辺を田園に囲まれた自然環境豊かな場所にあり、特別養護老人ホーム、デイサービスや居宅介護支援事業所等が運営されている法人の敷地内に建てられている。
お風呂は源泉かけ流し天然温泉であり、いつでも温泉に入ることができる。
また、食事は3食共に手作りであり、利用者の嗜好に合わせて、栄養管理ができた食事を提供している。
法人としての研修や勉強会が計画的に実施され、スキルアップの機会もあるため、勤続年数の長いスタッフが充実していることも特徴である。

項目番号		項目	自己評価 実践状況	外部評価	
自己	外部			実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
【I 理念に基づく運営】					
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	地域の中で共に、その人らしく暮らしている様に、職員と話し合っって理念を作成した。朝、夕の申し送り時に唱和し、全員が共有し同じ気持ちで支援できるように実践している。	地域密着型の視点がある理念があり、朝夕の申し送り時に唱和している。月に一度行われる寮母会議の中で、理念に基づいた介護が提供されているかの確認や協議が行われている。	
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	昨年から、コロナ禍の為来援の為来援することもなくなった。地域運営推進会議も中止。	同一敷地の施設・事業所が合同で主催する納涼祭には、多くの地域の方が参加する行事であった。また、地域の方が事業所の花壇の手入れに來たり、利用者と一緒に製作活動をしたりと、地域との交流は活発に行われていた。コロナ禍の現状では、地域活動は一時中止の状態であるが、いつでも再開できるように準備をしている。	
3	—	○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	家族が来苑された時に状況の報告を行い、コロナ禍で地域運営推進会議は出来ていない。	/	/
4	3	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	令和2年より、コロナ禍で運営推進会議もできないが、情報、状況報告は2ヶ月に1回郵便物を送ったり、必要に応じて電話連絡を行っている。	運営推進会議は2か月に1度開催され、利用者、家族、市町村職員、地域包括支援センター、婦人会、民生委員、法人本部職員が参加している。現状はコロナ禍により、書面の郵送とアンケートを実施している。会議での意見等を運営に反映させている。	
5	4	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	相談事や市の申請、書類等で行き来したり、電話相談も受けて頂く等、いつでも相談できる体制にある。	役所や地域包括支援センターとは、随時、連絡・相談をしている。近隣の公民館に向いて、認知症について住民の理解を深めるようなテーマの研修を行う等の協力を行っている。	
6	5	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束委員会を設置しており、職員間で情報共有し、身体拘束をしないケアを行っている。	事業所の玄関や庭への出入口は施錠をしておらず、いつでも利用者は出入りが可能である。身体拘束の委員会が3か月に1度開催されており、身体拘束についての話し合いを事業所全体で行う体制が取られている。	

項目番号		項目	自己評価 実践状況	外部評価	
自己	外部			実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
7	—	○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見逃されることのないよう注意を払い、防止に努めている	身体拘束委員会に入っており、職員は身体拘束をしない介護、身体拘束虐待防止について勉強している。		
8	6	○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	成年後見制度についての勉強会で内容把握に職員が努めている。成年後見制度に関するパンフレットを用意し活用出来るようにしている。	成年後見制度について、利用開始時に説明を行っている。職員は制度について、研修で学んだり、各自で資料を使って学習している。	
9	—	○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約または改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	その都度契約書に基づき分かりやすく説明し、家族に理解、納得して頂くまで説明している。		
10	7	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	利用者とのコミュニケーションを十分に図り、要望等を聞き取り、その内容を寮母会議の議題で話合う。ユニット会議で意見交換し情報を共有する。家族には、面会時や電話連絡時に要望や意見等がないか訪ねている。また、年に1回家族会を開催し、意見を出し会って頂き職員の質の向上に努めるも、コロナ禍で昨年家族会は中止。	日常生活の中で利用者から希望等があった場合には、会議等で検討し、運営に反映させるようにしている。家族に対しては、出来る限り利用者の日常の様子を知ってもらうために、写真を撮影し家族へ送っている。家族会は、年に一度開催されている。	
11	8	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	月1回の寮母会議で意見を話し合い、会議での意見や提案を業務会議で報告している。	職員の意見を聞く体制があり、運営に関する職員意見や提案を受けて、運営に取り入れている。	
12	—	○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	毎月1回、全職員が集合する施設グループの全体朝礼があり、理事長や施設長からの話がある。又、毎月1回敬和苑グループの勉強会があり、ジャンル毎の専門的な講義を受けていたが、コロナ禍で中止。コロナワクチン接種済みの職員で7月は全体朝礼が行われ、勉強会も小人数で行われた。		

項目番号		項目	自己評価 実践状況	外部評価	
自己	外部			実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
13	9	○人権の尊重 法人代表者及び管理者は、職員の募集・採用にあたっては性別や年齢等を理由に採用対象から排除しないようにしている。 また、事業所で働く職員についても、その能力を発揮していき生きとして勤務し、社会参加や自己実現の権利が十分に保障されるよう配慮している	職員の年齢は、幅広く20歳代から60歳代までの方が、働いている。お互いの長所や短所を補い合い協力して良い関係を築いている。また、職員全員が、福利厚生に加入し、公休の希望等取り入れている。昨年より男性職員も一緒に働いている。	幅広い年代の職員が働いており、定年は規定されているが、本人の希望や健康状態によって継続して、定年前と同じように働くことができる。職員の採用については、法人の一括採用ではなく、事業所個別の採用のため、本人の希望する事業所で働くことが可能である。	
14	10	○人権教育・啓発活動 法人代表者及び管理者は、利用者に対する人権を尊重するために、職員等に対する人権教育、啓発活動に取り組んでいる	敬和苑グループ内で定期的に全体勉強会があり、全員参加している。就業規則の中で、セクハラ、パワハラの禁止条も盛り込んでいるが、コロナ禍で中止。7月はコロナワクチン予防接種2回接種した職員のみ、少人数で行われた。	人権についての研修は、本部による合同研修に事業所の代表者が参加し、事業所内の内部研修で伝達研修を行っている。内部の研修に参加できない際は、研修の記録を閲覧している。	
15	—	○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	必要に応じ研修を受け、研修内容を勉強会の中で報告し実践に活かしている。又資格取得を奨励している。		
16	—	○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	認知症実践者研修、管理者研修やリーダー研修、その他研修等で各事業所の問題点、抱えている悩みや取り組み等の報告や話し合いを持ち、アドバイス等に職場で活かしている。		
【Ⅱ 安心と信頼に向けた関係づくりと支援】					
17	—	○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	グループホームの日々の生活を理解、納得して頂き現状の不安や悩みを取り除く対応をしている。本人とも十分に話し合い本人の希望に添えるよう対応に努めている。認知症の信仰により、理解力が乏しい方等家族へ報告、連絡、相談を密にして信頼関係を築けるように努めている。		
18	—	○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	家族の不安、要望にいつでも応える事が出来るように些細な事にも傾聴し、信頼関係を大切に努めている。		

項目番号		項目	自己評価 実践状況	外部評価	
自己	外部			実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
19	—	○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	本人と家族のニーズを十分に把握し、状況や状態に応じて、どのようなサービスが必要か検討を行っている。		
20	—	○本人と共に過ごし支え合う関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	調理法や会話の中で貴重な体験話等、利用者より知恵を借りる事のみならず、洗濯物畳等職員と一緒にして頂いている。		
21	—	○本人を共に支え合う家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	何か問題があれば家族に相談、話し合い本人に家族の方が、楽しく安心して過ごし頂ける様、個人個人に添った支援を行っている。		
22	11	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	知人や友人の面会はコロナ禍の為中止、緊急事態宣言等解除された場合は、コロナ対策の徹底を行い、時間を決めて面会ができる様に対応している。	馴染みの人や場所を把握するために、施設の利用申込書に記入欄を設けて、家族に記入してもらい、さらに詳細な聞き取りも行っている。面会のできる状況下では、友人が利用者を訪ねて事業所を訪れることもあった。使用者が住んでいた場所を訪れる際に、事業所の車いす車両を活用して、家族の介護では難しい場所への送り迎えを事業所で支援している。	
23	—	○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	職員が個人の性格や個性を把握して、孤立しない様に心がけて対応している。また、利用者同士の関わりを通して、個人の長所が活かされる様に支援を行っている。		
24	—	○関係を断ち切らない取り組み サービス利用（契約）が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	相談等があった場合は、話を聞いて可能な限りアドバイスをしている。また、再入所の相談があれば、状況に応じて対応している。		

項目番号		項目	自己評価 実践状況	外部評価	
自己	外部			実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
【Ⅲ その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント】					
25	12	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している。	利用者、家族の意見を聞き、本人のニーズに合わせたプランを作成し実行している。	職員一人一人が利用者に目配りをしており、家族のように大切に接する中で利用者の表情や発した言葉の真意を推し測ったり、思いや意向の把握に努めている。朝夕の申し送りなどを通して職員全員で共有している。意思疎通が困難な方も、家族から好きな食べ物など情報を得て、利用者寄り添う介護に努めている。	
26	—	○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入居時に本人や家族に詳しく情報を聞き、また、友人や知人等の面会にも生活歴や趣味等の情報収集に努めている。		
27	—	○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	朝、夕その日の様子や体調等を把握して申し送りを行っている。個人記録にはス徳院がいつでも目を通せるようにしている。また、ユニットごとに小さな申し送り版を設けて目を通してしている。その時の変化や気付いた事は、申し送りノートに記入し、交代勤務でも把握出来るように心がけている。（連絡・報告・相談の徹底）		
28	13	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	ケアプランでは本人、家族、職員の意見を聞いて作成している。半年に1回状態変化時には、ケアプランを見直しを行い担当の職員や家族、その他の職員の意見を聞き、変化や問題点、現状を把握し計画を作成している。	介護計画担当者が本人や家族から意見を聞き取り、ケアプラン案を作成し、ユニット毎にミーティングを行い、ケアプランを作成する。6ヶ月に1回、または、状況の変化に応じて、その都度見直しを行い、現状に即したケアプランを作成している。ケアプランは本人・家族等に説明を行い、署名をもらっている。	
29	—	○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	個人記録やケアプランの実践後に記録し、情報を共有し寮母会議やユニット会議でスタッフからの意見を検討したことを参考にし見直しに活かしている。		
30	—	○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	特養（7ヶ所）、有料、グループホーム（2ヶ所）、デイサービス（6ヶ所）、居宅、ケアハウス、軽費老人ホームを法人が運営しているので様々な状況に寄って対応している。		

項目番号		項目	自己評価 実践状況	外部評価	
自己	外部			実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
31	—	○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	防災訓練（年に2回）行っている。ボランティア活動等の受け入れは、コロナ禍の為に中止		
32	14	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	グループホームの主治医（内科医、歯科医）がいる。利用者の係つけ医があれば、そちらを優先している。認知症の専門医は家族の理解を得て、認知症の専門医は家族の理解を得て認知症の進行状況を相談したり、通院している。薬の調整や状況の報告をしている。緊急時は、地域の救急病院の協力がある。	かかりつけ医の希望については、利用者の意向を尊重して、継続した受診を支援している。かかりつけ医の受診は家族が同行している。事業所の主治医は月3回訪問診療を行い、適切な医療を受けられるように支援している。受診結果は家族に行っている。	
33	—	○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	以前は、緊急時同使節内の有料老人ホームの看護師に要請していたが、H27.10月1日より、訪問看護ステーションみやまと契約し、医療連携体制を図っている。		
34	—	○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている	家族や病院と連絡はできている。入院中の変化や状況を家族から、伺ったり、病院に outgoing 確認したり、医療連携に訪ねたりしている。		
35	15	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	終末期ケアについては、重度化する以前早い段階から、家族と相談、話し合いを行い家族や本人の以降を各便し、医師と職員と共に話合っている。本人や家族の意思を優先し、出来る事、出来ない事を正確に伝えて出来る限りの支援をしている。家族の意向により同系列の施設（特養）に入所したり、療養型施設の相談を行っている。またH.27.10.1より、訪問看護ステーションみやまと契約し、医療連携を図っている。	「重度化した場合における対応及び看取りに係る指針」があり、利用開始時に説明している。「意向確認書」を作成し、意向確認を行っている。かかりつけ医の往診、訪問看護、24時間連携など契約を行い、医師や看護師と連携している。家族の意向を丁寧に確認しながら、主治医や職員と情報共有を行い、看取りに取り組んでいる。	
36	—	○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	応急手当のマニュアルを作成している。		

項目番号		項目	自己評価 実践状況	外部評価	
自己	外部			実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
37	16	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	年2回消防立ち合いの元総合訓練を行っていたが、コロナ禍で消防の立ち合いは出来ていない。	風水害時・地震マニュアルを策定しており、年2回、消防署の協力を得て、消火器の使用、通報、避難訓練、夜間想定も含む火災訓練を事業所で行っている。地域住民に声をかけ実施している。非常用備蓄は併設する事業所に余力もってリスト化されて備蓄されている。	
【IV その人らしい暮らしを続けるための日々の支援】					
38	17	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	利用者個々の性格や人格、生活歴等を把握し、誇りやプライバシーを損ねない声かけを心がけている。また、入浴や排泄時には、特にプライバシーに注意を払って対応している。	「暖かい心、眼差し、言葉で思いやりのあるケア」と理念に掲げられており、利用者の気持ちに配慮した声かけを行っている。特に排泄時は自尊心を傷つけないような言葉かけなど支援を心がけており、全体研修を通して確認している。	
39	—	○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	本人がやりたい事、したい事の趣味等を尋ねて、一緒に行う事で本人の新たな発見ややりがいを見つけ出すように模索しながら働きかけている。		
40	—	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	本人の意思にそぐわない時等、無理強いせず時間をあけたり、内容の変更をおこなったり、気兼ねなく出来るように配慮している。		
41	—	○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	2ヶ月に1度、出張散髪に来て頂いている。本人に尋ねてからカットをしてもらっている。コロナ禍の為、様子を見ながら対応している。		
42	18	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	毎食後の準備で、トレー拭きやテーブル拭きをして頂いている。	3食とも事業所独自の献立を作成し、手作りでバランスの良い食事を心がけている。状態に合わせて食事内容の変更など随時対応している。利用者は身体状況に合わせて、トレー拭き、テーブル拭き、エプロンたたみ等手伝って意欲の向上を図っている。また、お花見昼食会など行って、食事が楽しみなものになるよう工夫している。	

項目番号		項目	自己評価 実践状況	外部評価	
自己	外部			実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	—	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	バランスの良い食事や偏りが無い食事を心がけている。利用者の運動量や摂取量を考慮して、盛り付け行いまた、持病、体調等により、食事内容の変更や味付けや量、租借、嚥下状態も個人に合わせて対応している・その他に。水分摂取で10時、13時、15時や入浴後にはお茶やコーヒー等を提供している。		
44	—	○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	自立支援を目的に、まずは利用者に歯磨き、義歯の洗浄を行ってもらい、その後仕上げ磨きにスタッフが解除行う。口腔内の残渣物の有無、義歯などの状態の観察を行う。異常があれば、週1回の訪問歯科の際に報告をする。虫歯や義歯調整の必要がない方も定期的に診て頂いている。		
45	19	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	トイレ排泄を継続できるようにリハビリ訓練等で下肢の筋力強化に努めている。また、個人の排泄パターンやちょっとした仕草や動作などの変化を把握し、早めの声掛けを行い対応する。	排泄パターンを利用者ごとに把握し、利用者の表情や仕草からトイレへさりげなく誘導している。オムツやパッドの使用は、排泄チェック表で尿量・回数など排泄状況を把握して、ユニット会議で職員で支援の見直しについて話し合い、家族に確認している。	
46	—	○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	水分摂取の回数や量を増やし対応する。食事の際にも租借が、きちんと出来ているか、また、植物繊維の食事が提供出来るか等の把握を行う。日中の活動時間にもリハビリや軽運動等で、全身運動を取り入れている。		
47	20	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった入浴の支援をしている	週2回行っているが、夏場は1日おきに行っている。温泉が出ているので利用者の希望に応じていつでも入浴ができる。	週2回、夏場は週3回入浴の設定はあるが、毎日準備をしており、一人ひとりのタイミングや希望があればいつでも入浴できる。入浴拒否の利用者には職員を変えたり、言葉かけや時間をかけて寄り添い、無理強いをせず支援している。	
48	—	○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	眠れない利用者には、日光浴や屋間の活動内容の検討を行う。また、一緒にテレビを観たり、話などをして過ごして頂く。不眠が続く場合は、家族や医師に相談する。		

項目番号		項目	自己評価 実践状況	外部評価	
自己	外部			実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
49	—	○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	個人個人のお薬手帳があり、主治医の元で記入して頂き職員がいつでも観られるように決まった箇所に保管している。薬の変更時は、申し送りノートを活用している。職員が把握出来るような体制にある。		
50	—	○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	テーブル拭き、選択物量、自ら役割を持たれている利用者がいる。また、数字、カナ、ひらがな、漢字合わせや季節に応じた苑外散歩等様々な取り組みを行っている。		
51	21	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	コロナ禍の中でも特別な時、定期受診等は外出する。	コロナ禍で外出や地域のふれあいができない状態だが、施設内での食事会や行事を行ったり、敷地内周辺のさくら見物や写真撮影を行い、敷地内や周辺を散歩したり工夫している。	
52	—	○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	現在個人で所有している方はいらしゃらなく、本人の希望等で買い物に行く際は、家族に相談をして職員が買い物をしている。		
53	—	○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	本人の希望があれば、家族への電話の取次ぎを行っている。		
54	22	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激（音、光、色、広さ、温度など）がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	リビングには、3つのソファを設置しているが、ゆっくりと過ごせるスペースを、確保している。居室内には、利用者の方の作品（ちぎり絵・イベント時の作品）などを展示している。カーテンによる遮光の調節や室温、温度に配慮し快適空間を提供している。	季節感のある掲示物を利用者と職員が作成して掲示されており、ゆったりとソファが配置されている。利用者に馴染みのある音楽がかけられ、テーブルで手工芸をしたり、利用者が思い思いに過ごしている。温・湿度は調整され、天窓から柔らかい光が差し込む、居心地良い開放感のある空間になっている。	

項目番号		項目	自己評価 実践状況	外部評価	
自己	外部			実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
55	—	○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	リビング内は広く、3つソファを設置している。個人個人好きな場所で過ごして頂いている。また、ウッドデッキを活用して外気浴や苑外散歩等も楽しめる。		
56	23	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	馴染みの小物や写真を置かれてある。また、作品等を飾られてある。限られた部屋が、狭くならない為にも季節の衣替え時期の布団や衣類等は家族に交換して頂いている。	居室は、ベッド・マットレス・エアコンなどが備え付けられ、利用者が安全に生活できる環境が提供されている。馴染みの小物・家族写真などが配置され、スッキリと整理され、居心地よく過ごせるような空間となっている。	
57	—	○身体機能を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの身体機能やわかる力を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	リビング内、トイレにも手摺をつけている。トイレの便座の高さも利用者に合わせている。リビング、居室には、段差がなく車椅子の方も自力駆動ができるスペースを確保している・		

項目番号		項 目	取 り 組 み の 成 果	
自己	外部		(該当する箇所を○印で囲むこと)	
V サービスの成果に関する項目（アウトカム項目）				
58	—	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる。 (参考項目：25, 26, 27)	<input type="radio"/>	①ほぼ全ての利用者の
			<input type="radio"/>	②利用者の2/3くらいの
			<input type="radio"/>	③利用者の1/3くらいの
			<input type="radio"/>	④ほとんど掴んでいない
59	—	利用者と職員が一緒にゆったりと過ごす場面がある。 (参考項目：20, 40)	<input type="radio"/>	①毎日ある
			<input type="radio"/>	②数日に1回程度ある
			<input type="radio"/>	③たまにある
			<input type="radio"/>	④ほとんどない
60	—	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている。 (参考項目：40)	<input type="radio"/>	①ほぼ全ての利用者が
			<input type="radio"/>	②利用者の2/3くらいが
			<input type="radio"/>	③利用者の1/3くらいが
			<input type="radio"/>	④ほとんどいない
61	—	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目：38, 39)	<input type="radio"/>	①ほぼ全ての利用者が
			<input type="radio"/>	②利用者の2/3くらいが
			<input type="radio"/>	③利用者の1/3くらいが
			<input type="radio"/>	④ほとんどいない
62	—	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目：51)	<input type="radio"/>	①ほぼ全ての利用者が
			<input type="radio"/>	②利用者の2/3くらいが
			<input type="radio"/>	③利用者の1/3くらいが
			<input type="radio"/>	④ほとんどいない
63	—	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている。 (参考項目：32, 33)	<input type="radio"/>	①ほぼ全ての利用者が
			<input type="radio"/>	②利用者の2/3くらいが
			<input type="radio"/>	③利用者の1/3くらいが
			<input type="radio"/>	④ほとんどいない
64	—	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている。 (参考項目：30)	<input type="radio"/>	①ほぼ全ての利用者が
			<input type="radio"/>	②利用者の2/3くらいが
			<input type="radio"/>	③利用者の1/3くらいが
			<input type="radio"/>	④ほとんど掴んでいない

項目番号		項 目	取 り 組 み の 成 果			
自己	外部		(該当する箇所を○印で囲むこと)			
V サービスの成果に関する項目（アウトカム項目）						
65	—	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています。 (参考項目：9, 10, 21)	○	① ほぼ全ての家族と		
				② 家族の2/3くらいと		
				③ 家族の1/3くらいと		
				④ ほとんどできていない		
66	—	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている。 (参考項目：2, 22)		① ほぼ毎日のようにある		
				② 数日に1回程度ある		
				③ たまにある		
			○	④ ほとんどない		
67	—	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりの拡がりや深まりがあり、事業所の理解者や応援者が増えている。 (参考項目：4)		① 大いに増えている		
				② 少しずつ増えている		
			○	③ あまり増えていない		
				④ 全くいない		
68	—	職員は、生き生きと働いている。 (参考項目：11, 12)	○	① ほぼ全ての職員が		
				② 職員の2/3くらいが		
				③ 職員の1/3くらいが		
				④ ほとんどいない		
69	—	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う。		① ほぼ全ての利用者が		
			○	② 利用者の2/3くらいが		
				③ 利用者の1/3くらいが		
				④ ほとんどいない		
70	—	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う。		① ほぼ全ての家族等が		
			○	② 家族等の2/3くらいが		
				③ 家族等の1/3くらいが		
				④ ほとんどいない		

項目番号		項 目	自己評価	外部評価	
自己	外部		実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
【I 理念に基づく運営】					
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	地域の中で共に、その人らしく暮らしている様に、職員と話し合っって理念を作成した。朝、夕の申し送り時に唱和し、全員が共有し同じ気持ちで支援できるように実践している。		
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	昨年から、コロナ禍の為来援の為来援することもなくなった。地域運営推進会議も中止。		
3	—	○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	家族が来苑された時に状況の報告を行い、コロナ禍で地域運営推進会議は出来ない。		
4	3	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	令和2年より、コロナ禍で運営推進会議もできないが、情報、状況報告は2ヶ月に1回郵便物を送ったり、必要に応じて電話連絡を行っている。		
5	4	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	相談事や市の申請、書類等で行き来したり、電話相談も受けて頂く等、いつでも相談できる体制にある。		
6	5	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束委員会を設置しており、職員間で情報共有し、身体拘束をしないケアを行っている。		

項目番号		項目	自己評価 実践状況	外部評価	
自己	外部			実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
7	—	○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされないよう注意を払い、防止に努めている	身体拘束委員会に入っており、職員は身体拘束をしない介護、身体拘束虐待防止について勉強している。		
8	6	○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	成年後見制度についての勉強会で内容把握に職員が努めている。成年貢献制度に関するパンフレットえお用意し活用出来るようにしている。		
9	—	○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約または改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	その都度契約書に基づき分かりやすく説明し、家族に理解、納得して頂くまで説明している。		
10	7	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	利用者とのコミュニケーションを十分に図り、要望等を聞き取り、その内容を寮母会議の議題で話会う。ユニット会議で意見交換し情報を共有する。家族には、面会時や電話連絡時に要望や意見等がないか訪ねている。また、年に1回家族会を開催し、意見を出し会って頂き職員の質の向上に努めるも、コロナ禍で昨年家族会は中止。		
11	8	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	月1回の寮母会議で意見を話し合い、会議での意見や提案を業務会議で報告している。		
12	—	○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	毎月1回、全職員が集合する施設グループの全体朝礼があり、理事長や施設長からの話がある。又、毎月1回敬和苑グループの勉強会があり、ジャンル毎の専門的な講義を受けていたが、コロナ禍で中止。コロナワクチン接種済みの職員で7月は全体朝礼が行われ、勉強会も小人数で行われた。		

項目番号		項目	自己評価 実践状況	外部評価	
自己	外部			実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
13	9	○人権の尊重 法人代表者及び管理者は、職員の募集・採用にあたっては性別や年齢等を理由に採用対象から排除しないようにしている。 また、事業所で働く職員についても、その能力を発揮していき生きとして勤務し、社会参加や自己実現の権利が十分に保障されるよう配慮している	職員の年齢は、幅広く20歳代から60歳代までの方が、働いている。お互いの長所や短所を補い合い協力して良い関係を築いている。また、職員全員が、福利厚生に加入し、公休の希望等取り入れている。昨年より男性職員も一緒に働いている。		
14	10	○人権教育・啓発活動 法人代表者及び管理者は、利用者に対する人権を尊重するために、職員等に対する人権教育、啓発活動に取り組んでいる	敬和苑グループ内で定期的に全体勉強会があり、全員参加している。就業規則の中で、セクハラ、パワハラ禁止条も盛り込んでいるが、コロナ禍で中止。7月はコロナワクチン予防接種2回接種した職員のみ、少人数で行われた。		
15	—	○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	必要に応じ研修を受け、研修内容を勉強会の中で報告し実践に活かしている。又資格取得を奨励している。		
16	—	○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	認知症実践者研修、管理者研修やリーダー研修、その他研修等で各事業所の問題点、抱えている悩みや取り組み等の報告や話し合いを持ち、アドバイス等に職場で活かしている。		
【Ⅱ 安心と信頼に向けた関係づくりと支援】					
17	—	○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	グループホームの日々の生活を理解、納得して頂き現状の不安や悩みを取り除く対応をしている。本人とも十分に話し合い本人の希望に添えるよう対応に努めている。認知症の信仰により、理解力が乏しい方等家族へ報告、連絡、相談を密にして信頼関係を築けるように努めている。		
18	—	○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	家族の不安、要望にいつでも応える事が出来るように些細な事にも傾聴し、信頼関係を大切に努めている。		

項目番号		項目	自己評価 実践状況	外部評価	
自己	外部			実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
19	—	○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	本人と家族のニーズを十分に把握し、状況や状態に応じて、どのようなサービスが必要か検討を行っている。		
20	—	○本人と共に過ごし支え合う関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	利用者とのコミュニケーションを十分に取しながら、その方にあった事や出来る事を、職員や利用者を変え一緒にしている。利用者とのコミュニケーションを取りながら、調理法、利用者の知恵をお借りする。		
21	—	○本人を共に支え合う家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	何か問題があれば家族に相談、話し合い本人に家族の方が、楽しく安心して過ごし頂ける様、個人個人に添った支援を行っている。		
22	11	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	知人や友人の面会はコロナ禍の為中止、緊急事態宣言等解除された場合は、コロナ対策の徹底を行い、時間を決めて面会ができる様に対応している。		
23	—	○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せず利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	男性の利用者が、ユニット1名入所されてからは、孤立しない様にコミュニケーションを図り、楽しんで生活を送れるように対応を行っている。		
24	—	○関係を断ち切らない取り組み サービス利用（契約）が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	相談等があった場合は、話を聞いて可能な限りアドバイスをしている。また、再入所の相談があれば、状況に応じて対応している。		

項目番号		項目	自己評価 実践状況	外部評価	
自己	外部			実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
【Ⅲ その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント】					
25	12	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している。	利用者、家族の意見を聞き、本人のニーズに合わせたプランを作成し実行している。		
26	—	○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入居時に本人や家族に詳しく情報を聞き、また、友人や知人等の面会にも生活歴や趣味等の情報収集に努めている。		
27	—	○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	朝、夕その日の様子や体調等を把握して申し送りを行っている。個人記録にはス徳院がいつでも目を通せるようにしている。また、ユニットごとに小さな申し送り版を設けて目を通してしている。その時の変化や気付いた事は、申し送りノートに記入し、交代勤務でも把握出来るように心がけている。（連絡・報告・相談の徹底）		
28	13	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	ケアプランでは本人、家族、職員の意見を聞いて作成している。半年に1回状態変化時には、ケアプランを見直しを行い担当の職員や家族、その他の職員の意見を聞き、変化や問題点、現状を把握し計画を作成している。		
29	—	○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	個人記録やケアプランの実践後に記録し、情報を共有し寮母会議やユニット会議でスタッフからの意見を検討したことを参考にして見直しに活かしている。		
30	—	○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	特養（7ヶ所）、有料、グループホーム（2ヶ所）、デイサービス（6ヶ所）、居宅、ケアハウス、軽費老人ホームを法人が運営しているので様々な状況に寄って対応している。		

項目番号		項目	自己評価 実践状況	外部評価	
自己	外部			実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
31	—	○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	防災訓練（年に2回）行っている。ボランティア活動等の受け入れは、コロナ禍の為に中止		
32	14	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	グループホームの主治医（内科医、歯科医）がいる。利用者の係つけ医があれば、そちらを優先している。認知症の専門医は家族の理解を得て、認知症の専門医は家族の理解を得て認知症の進行状況を相談したり、通院している。薬の調整や状況の報告をしている。緊急時は、地域の救急病院の協力がある。		
33	—	○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	以前は、緊急時同使節内の有料老人ホームの看護師に要請していたが、H27.10月1日より、訪問看護ステーションみやまと契約し、医療連携体制を図っている。		
34	—	○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている	家族や病院と連絡はできている。入院中の変化や状況を家族から、伺ったり、病院に outgoing 確認したり、医療連携に訪ねたりしている。		
35	15	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	終末期ケアについては、重度化する以前早い段階から、家族と相談、話し合いを行い家族や本人の以降を各便し、医師と職員と共に話合っている。本人や家族の意思を優先し、出来る事、出来ない事を正確に伝えて出来る限りの支援をしている。家族の意向により同系列の施設（特養）に入所したり、療養型施設の相談を行っている。またH.27.10.1より、訪問看護ステーションみやまと契約し、医療連携を図っている。		
36	—	○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	応急手当のマニュアルを作成している。		

項目番号		項目	自己評価 実践状況	外部評価	
自己	外部			実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
37	16	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	年2回消防立ち合いの元総合訓練を行っていたが、コロナ禍で消防の立ち合いは出来ていない。		
【IV その人らしい暮らしを続けるための日々の支援】					
38	17	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	利用者個々の性格や人格、生活歴等を把握し、誇りやプライバシーを損ねない声かけを心がけている。また、入浴や排泄時には、特にプライバシーに注意をし対応している。		
39	—	○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	本人がやりたい事、したい事の趣味等を尋ねて、一緒に行う事で本人の新たな発見ややりがいを見つけ出すように模索しながら働きかけている。		
40	—	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	ラジオ体操や、口腔ケア体操、レクリエーション等声かけ行うが、本人のペースを大切にして無理強いせず気兼ねなく行ってもらえるように配慮している。		
41	—	○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	2ヶ月に1度、出張散髪に来て頂いている。本人に尋ねてからカットをしてもらっている。コロナ禍の為、様子を見ながら対応している。		
42	18	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	毎食後の準備でトレイ拭きやテーブル拭きをして頂いている。		

項目番号		項目	自己評価	外部評価	
自己	外部		実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	—	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	バランスの良い食事や偏りが無い食事を心がけている。利用者の運動量や摂取量を考慮して、盛り付け行いまた、持病、体調等により、食事内容の変更や味付けや量、租借、嚥下状態も個人に合わせて対応している・その他に。水分摂取で10時、13時、15時や入浴後にはお茶やコーヒー等を提供している。		
44	—	○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	自立支援を目的に、まずは利用者に歯磨き、義歯の洗浄を行ってもらい、その後仕上げ磨きにスタッフが解除行う。口腔内の残渣物の有無、義歯などの状態の観察を行う。異常があれば、週1回の訪問歯科の際に報告をする。虫歯や義歯調整の必要がない方も定期的に診て頂いている。		
45	19	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	トイレ排泄を継続できるようにリハビリ訓練等で下肢の筋力強化に努めている。また、個人の排泄パターンやちょっとした仕草や動作などの変化を把握し、早めの声掛けを行い対応する。		
46	—	○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	水分摂取の回数や量を増やし対応する。食事の際にも租借が、きちんと出来ているか、また、植物繊維の食事が提供出来るか等の把握を行う。日中の活動時間にもリハビリや軽運動等で、全身運動を取り入れている。		
47	20	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった入浴の支援をしている	週2回行っているが、夏場は1日おきに行っている。温泉が出ているので利用者の希望に応じていつでも入浴ができる。		
48	—	○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	眠れない利用者には、日光浴や屋間の活動内容の検討を行う。また、一緒にテレビを観たり、話などをして過ごして頂く。不眠が続く場合は、家族や医師に相談する。		

項目番号		項目	自己評価 実践状況	外部評価	
自己	外部			実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
49	—	○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	個人個人のお薬手帳があり、主治医の元で記入して頂き職員がいつでも観られるように決まった箇所に保管している。薬の変更時は、申し送りノートを活用している。職員が把握出来るような体制にある。		
50	—	○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	年を重ねられ、立っての仕事の手伝いは、危険性があるので座位したままで、手作業を優先的にしている。また、数、カナ、ひらがな、漢字合わせや季節に応じて塩害散歩等様々な取り組みを行っている。		
51	21	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	コロナ禍の中でも特別な時、定期受診等は外出する。		
52	—	○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	個人で所有している方はいらしゃらなく、お友達の方も年齢を重ねられ、外出困難になる。		
53	—	○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	本人の希望があれば、家族への電話の取次ぎを行っている。		
54	22	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激（音、光、色、広さ、温度など）がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	リビングには、3つのソファを設置しているが、ゆっくりと過ごせるスペースを、確保している。居室内には、利用者の方の作品（ちぎり絵・イベント時の作品）などを展示している。カーテンによる遮光の調節や室温、温度に配慮し快適空間を提供している。		

項目番号		項目	自己評価 実践状況	外部評価	
自己	外部			実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
55	—	○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	リビング内は広く、3つソファを設置している。個人個人好きな場所で過ごして頂いている。また、ウッドデッキを活用して外気浴や苑外散歩等も楽しめる。		
56	23	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのもを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	馴染みの小物や写真を置かれてある。また、作品等を飾られてある。限られた部屋が、狭くならない為にも季節の衣替え時期の布団や衣類等は家族に交換して頂いている。		
57	—	○身体機能を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの身体機能やわかる力を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	リビング内、トイレにも手摺をつけている。トイレの便座の高さも利用者に合わせている。リビング、居室には、段差がなく車椅子の方も自力駆動ができるスペースを確保している。		

項目番号		項 目	取 り 組 み の 成 果	
自己	外部		(該当する箇所を○印で囲むこと)	
V サービスの成果に関する項目（アウトカム項目）				
58	—	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる。 (参考項目：25, 26, 27)	<input type="radio"/>	①ほぼ全ての利用者の
			<input type="radio"/>	②利用者の2/3くらいの
			<input type="radio"/>	③利用者の1/3くらいの
			<input type="radio"/>	④ほとんど掴んでいない
59	—	利用者と職員が一緒にゆったりと過ごす場面がある。 (参考項目：20, 40)	<input type="radio"/>	①毎日ある
			<input type="radio"/>	②数日に1回程度ある
			<input type="radio"/>	③たまにある
			<input type="radio"/>	④ほとんどない
60	—	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている。 (参考項目：40)	<input type="radio"/>	①ほぼ全ての利用者が
			<input type="radio"/>	②利用者の2/3くらいが
			<input type="radio"/>	③利用者の1/3くらいが
			<input type="radio"/>	④ほとんどいない
61	—	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目：38, 39)	<input type="radio"/>	①ほぼ全ての利用者が
			<input type="radio"/>	②利用者の2/3くらいが
			<input type="radio"/>	③利用者の1/3くらいが
			<input type="radio"/>	④ほとんどいない
62	—	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目：51)	<input type="radio"/>	①ほぼ全ての利用者が
			<input type="radio"/>	②利用者の2/3くらいが
			<input type="radio"/>	③利用者の1/3くらいが
			<input type="radio"/>	④ほとんどいない
63	—	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている。 (参考項目：32, 33)	<input type="radio"/>	①ほぼ全ての利用者が
			<input type="radio"/>	②利用者の2/3くらいが
			<input type="radio"/>	③利用者の1/3くらいが
			<input type="radio"/>	④ほとんどいない
64	—	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている。 (参考項目：30)	<input type="radio"/>	①ほぼ全ての利用者が
			<input type="radio"/>	②利用者の2/3くらいが
			<input type="radio"/>	③利用者の1/3くらいが
			<input type="radio"/>	④ほとんど掴んでいない

項目番号		項 目	取 り 組 み の 成 果			
自己	外部		(該当する箇所を○印で囲むこと)			
V サービスの成果に関する項目（アウトカム項目）						
65	—	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています。 (参考項目：9, 10, 21)	○	①ほぼ全ての家族と		
				②家族の2/3くらいと		
				③家族の1/3くらいと		
				④ほとんどできていない		
66	—	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている。 (参考項目：2, 22)		①ほぼ毎日のようにある		
				②数日に1回程度ある		
				③たまにある		
			○	④ほとんどない		
67	—	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりの拡がりや深まりがあり、事業所の理解者や応援者が増えている。 (参考項目：4)		①大いに増えている		
				②少しずつ増えている		
			○	③あまり増えていない		
				④全くいない		
68	—	職員は、生き生きと働いている。 (参考項目：11, 12)	○	①ほぼ全ての職員が		
				②職員の2/3くらいが		
				③職員の1/3くらいが		
				④ほとんどいない		
69	—	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う。		①ほぼ全ての利用者が		
			○	②利用者の2/3くらいが		
				③利用者の1/3くらいが		
				④ほとんどいない		
70	—	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う。		①ほぼ全ての家族等が		
			○	②家族等の2/3くらいが		
				③家族等の1/3くらいが		
				④ほとんどいない		